

2020年 幾代会 11月観察会の結果

根川緑道を中心に歩く

- 1 日時 2020年11月8日(日) 天気 晴れ
- 2 参加者 越前 岡 羽深 石川 太田 中部 小沢(途中柴崎体育館駅から帰宅) 7名
- 3 下見 11月1日(日) 中部 同行者 宇津木 報告作成 中部喜和
- 4 ルート

立川駅南口→柴崎町3丁目交差点→中央公民館→諏訪ノ森公園→諏訪神社→旧八幡神社の大ケヤキ→普濟寺→普濟寺展望台より多摩の山々眺望→残堀川遊歩道と立川崖線→立川緑道入り口→かつての湧水(現在は日に2700トンの高度処理水を配水)→柴崎体育館付近で昼食→日野の渡し場立ち寄り貝殻坂橋→府中用水→ママ下湧水→矢川駅

- 5 この時期植物が観察されるのは果実を中心とした内容になる。それは後程にして、七五三が迫っており、諏訪神社ではその客が見られた。菊の花の時期でもあり、菊花展がされていた。

大樗といわれる旧八幡神社にあったという大木は立川の指定天然記念物になっている。南側の樹皮が幹を支え、葉を茂らせている。北側は内部が空洞になっており、樹皮もない。樹上の枝は南側の樹皮にさえられ高さ5m余り、大木の威容を誇る。普濟寺では国宝の六面石幢は補修中で見られなかった。

段丘崖の上にある展望台から奥多摩の山々と丹沢山塊、大山などまた秩父の山々が望まれた。この展望台は残堀川の崖上で立川崖線の上にある。高さは10数メートル余りである。

残堀川は瑞穂町の湧水として、昭和記念公園を通り、立川を経て多摩川に流れる。およそ15kmの川である。暴れ川だったという。目の前は日野市であり、前回歩いた日野台地が広がっている。

根川緑道は立川崖線から湧き出た湧水であったが、現在は高度処理水を流している。緑道入り口は手入れが施されていないためつる植物が繁茂していた。今年は新型コロナのせいもあって、面倒が見られない状況なのだろう。

途中かつての渡し場を見る。旧甲州街道である。名残りの碑がある。しばしモノレールの行方をたどりながら日野市の方を眺めていた。段丘崖は立川崖線と接する青柳崖線が柴崎駅付近から始まる。根川はその崖線に沿って流れる。やがて貝殻坂橋を渡る。大量に貝殻が見つかった場所だという。根川はここで多摩川にそそぐ。

橋を渡り、青柳面を歩くと府中用水取り入れ口が出てくる。国立市である。しばらく行くとママ下湧水に出会う。ママとは崖の意味だという。

ここで「さて」である。湧水沿いの植物たちについてこの時期は多く見ることは出来ない。ありふれた植物たちは多くは実をつけているのだが、概して、一つ一つを見て歩くといつ終わるかわからないということになる。上を見上げての観察となる。

途中の屋敷の木なども含めて書き出してみた。

- イチョウ カリン カクレミノ ソヨゴ シャリンバイ アキニレ ニシキギ ムラサキシキブ タラヨウ などの実

普段見ないもので花でもなく、実でもないがフリソデヤナギの名が記載された木があった。

またこの時期に咲く花がある。ジュウガツザクラは普濟寺で、シロダモ 立川崖線ではオスの木がママ下湧水上で雌の花と実を見た。シロダモのメスオスを見ることができた。後はコウホネが今?



シロダモ雌は撮影していない 残堀川 立川崖線で



ジュウガツザクラ 普濟寺で